

地方創生の担い手の連携

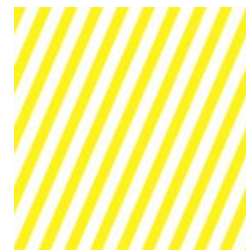
～地域の総合力アップのために～

地域連携によるまちづくり

2017年6月8日



茨木市



次なる
茨木へ。

茨木には、次がある。

企画財政部 政策企画課
向田 明弘

市の概要



・人口：280,518人(H29.3末)、123,530世帯(14年連続の人口増)

・地勢：東西10.07Km、南北17.05Km、面積76.49Km²

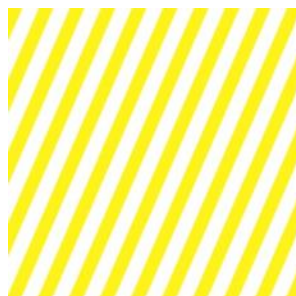
南北に長く、市北半分には北摂山系が広がります。



茨木市中心部の航空写真



山間部に広がる田園風景



次なる
茨木へ。

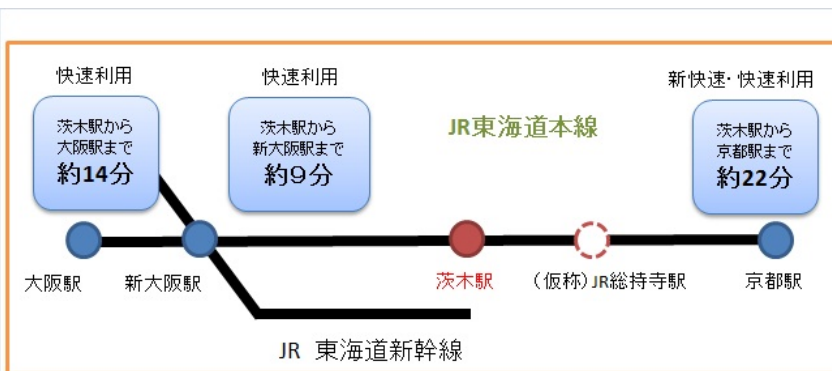
茨木には、次がある。

ブランドメッセージ・ロゴ

市の特徴(第5次茨木市総合計画より抜粋)

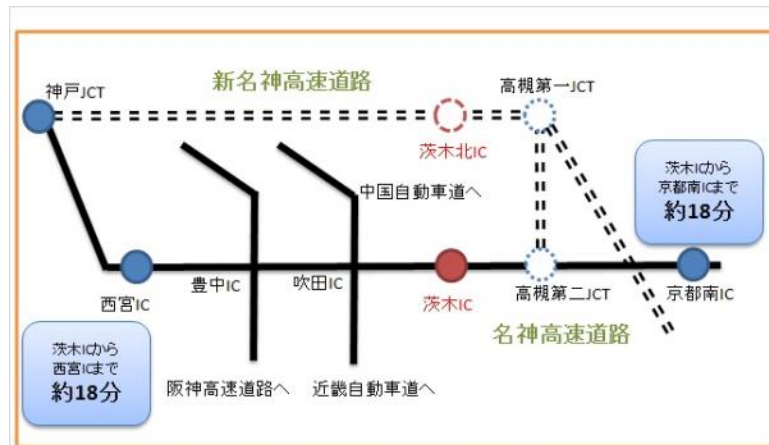
①交通環境が充実した便利なまち

- ・高速道路：名神・新名神(開通予定)高速道路、近畿自動車道
- ・鉄軌道：JR東海道本線、阪急京都線、大阪モノレール
- ・大阪都心まで約15Km



JR茨木駅

立命館大学の新キャンパス開設にあわせて、きれいに整備されました



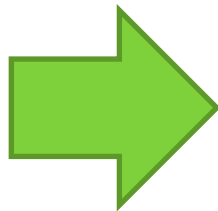
市の特徴(第5次茨木市総合計画より抜粋)

②主要プロジェクトをいかしたまちづくりの推進

彩都、安威川ダム、新名神高速道路といった従前から進められているプロジェクトに加え、大規模事業所の転出を契機とした新たなプロジェクトとして、**立命館大学(H27.4開設)**、JR新駅、スマートコミュニティの計画)が進んでいます。



昭和49年



平成28年

市の特徴(第5次茨木市総合計画より抜粋)

③学術研究機関などの資源が充実したまち

- ・大学、短期大学あわせて市内には6校が立地しており、平成28年5月1日現在の学生数は16,564人。
- ・大学とは地域の活性化等を目的に包括的な協定を結んでおり、さまざまな場面で相互に連携、協力しています。



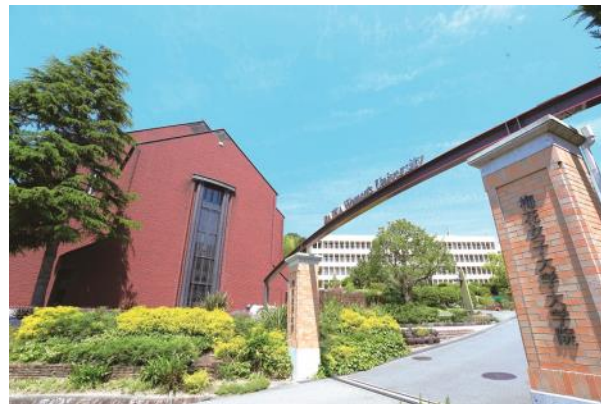
藍野大学



追手門学院大学
6学部と大学院4研究科
約6,500人が通う



立命館大学OICキャンパス
経営、政策科学、総合心理の3学部
約6,000人の学生が通う



梅花女子大学
4学部(文化表現、心理こども、
食文化、看護保健)
約2,000人が通う



大阪行岡医療大学

市の特徴(第5次茨木市総合計画より抜粋)

■茨木市における「産官学・官学連携」の締結状況

学校名	連携協定	日付
追手門学院大学	産・官・学連携基本協定締結	平成16年7月28日
梅花女子大学	産・官・学連携基本協定締結	平成18年11月13日
大阪大学	官・学連携基本協定締結	平成19年5月14日
龍谷大学	官・学連携基本協定締結	平成21年4月1日
立命館大学	産・官・学連携基本協定締結	平成24年8月9日
大阪成蹊大学、 大阪成蹊短期大学	産・官・学連携基本協定締結	平成25年8月30日
学校法人 藍野学院	官・学連携基本協定締結	平成27年11月12日

※赤字が市内大学。現在、大阪行岡医療大学とも協定締結に向け調整中。



藍野学院との締結式



大阪成蹊大学・短期大学との締結式

なぜ大学・学生に地域と連携してほしいのか？

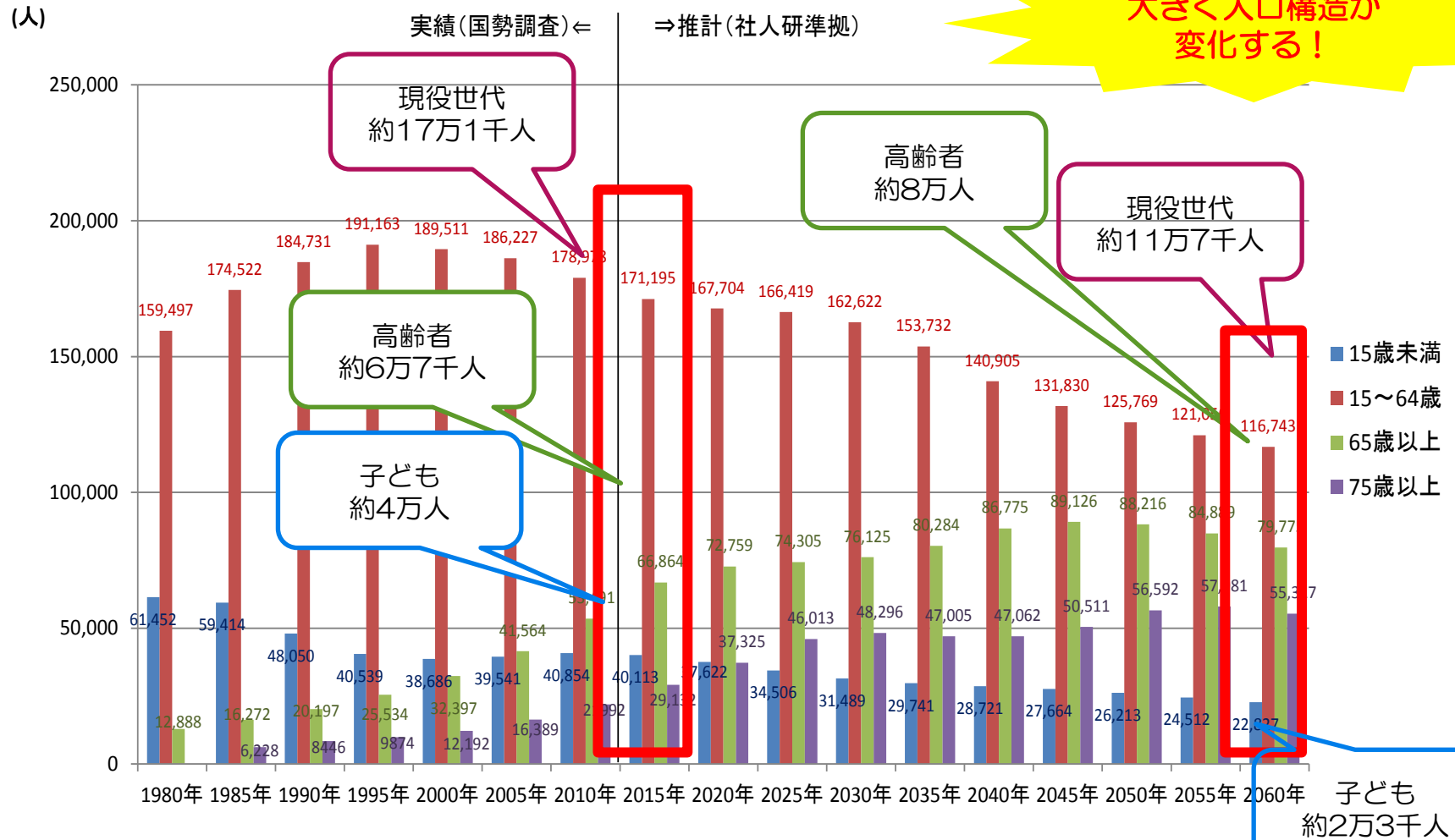




なぜ大学・学生に地域と連携してもらいたいのか？

①地域の活力向上

- ・人口減少と高齢化と少子化の進展により、人口構成が大きく変化し、地域の活力低下が大きな課題。





なぜ大学・学生に地域と連携してもらいたいのか？

①地域の活力維持・向上

- ・人口減少に加え、高齢化と少子化の進展により、人口構成が大きく変化する中、将来に向け地域の活力低下が大きな課題。

そのような時代にあっても、
持続可能なまちづくりをすすめるためには……

これからのまちづくり、地域活性化には、

- ・「ヨソモノ、ワカモノ、バカモノ」の力
- ・大学の持つ「知」の力

外部から客観的な物の見方ができる「よそ者」
しがらみなくチャレンジできる「わか者」
まわりに左右されず、信念を持ち打ち込める「ばか者」

が必要と考えます。

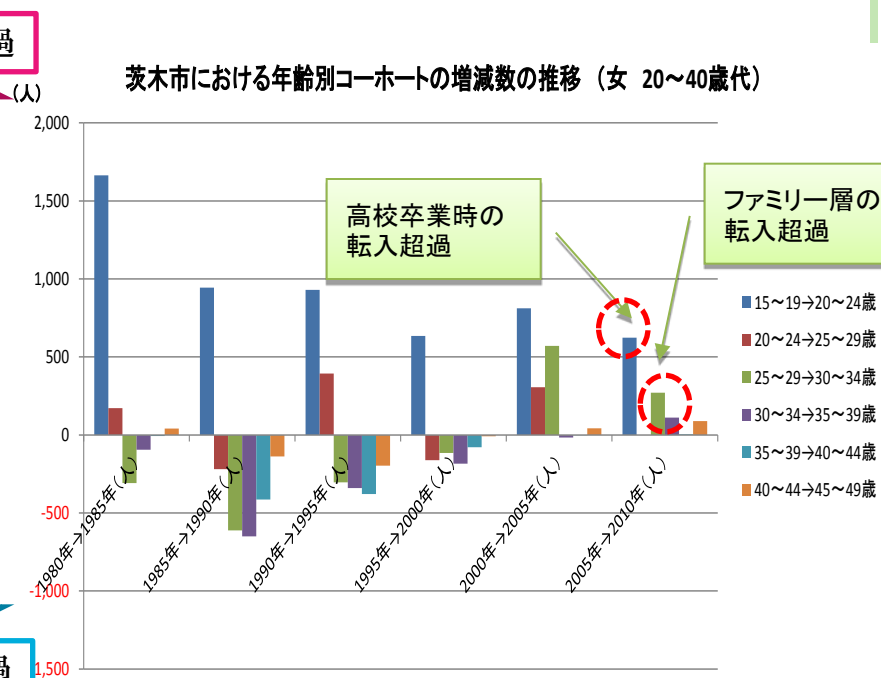
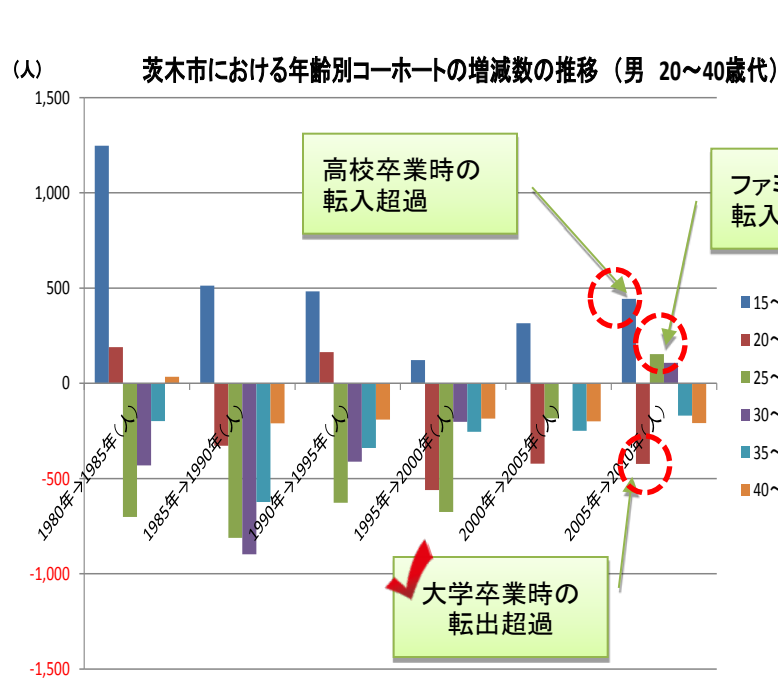


まさに大学・学生が持つ力！

なぜ大学・学生に地域と連携してもらいたいのか？

②若年層の人口移動

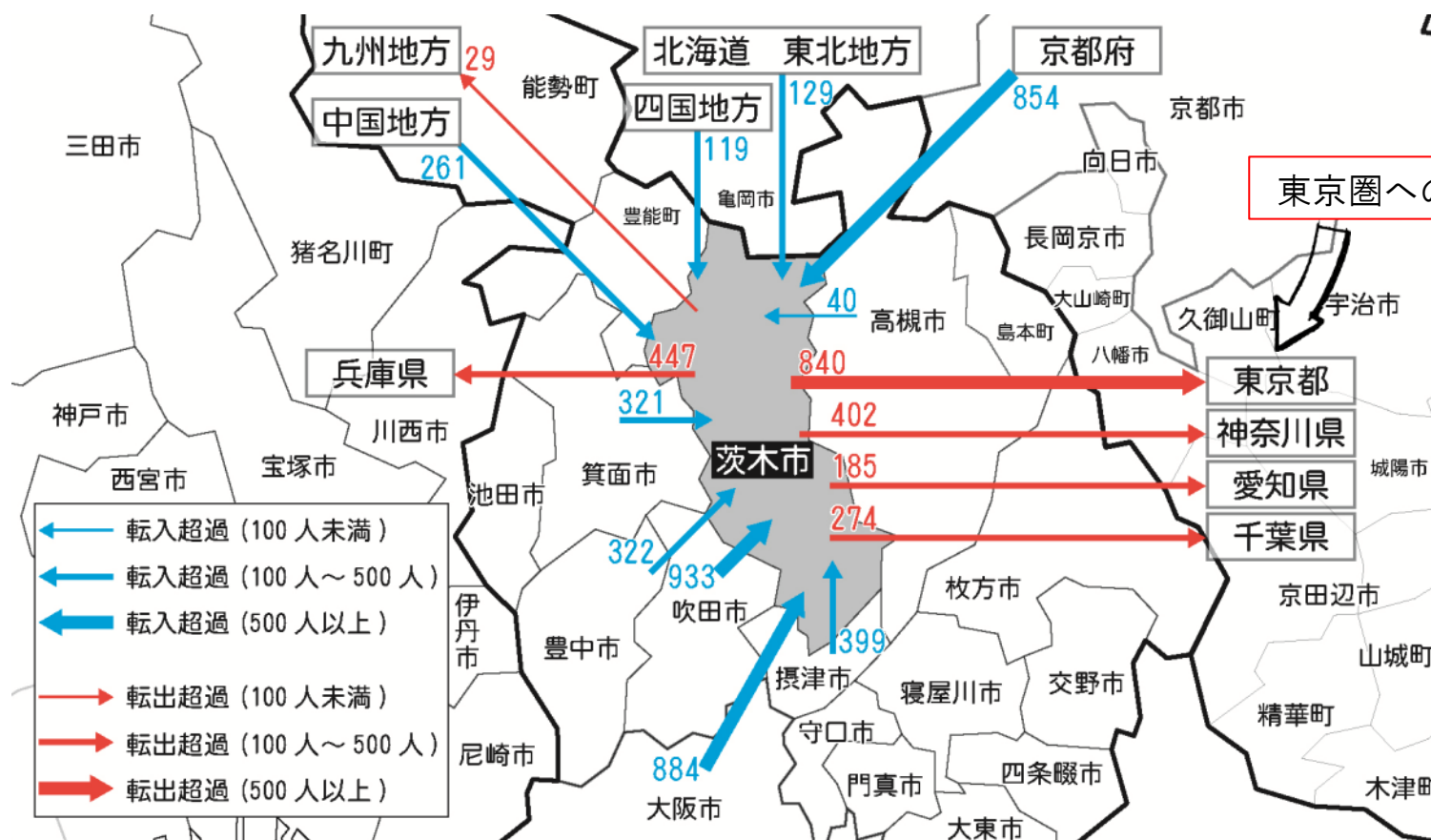
- ・大学が多く立地しているというのは茨木市の特長だが、同時に**大学卒業時の転出超過**としても現れています。



なぜ大学・学生に地域と連携してもらいたいのか？

②若年層の人口移動

➡ 就職により人が都市部、特に東京圏へ流れている！



なぜ大学・学生に地域と連携してもらいたいのか？



②若年層の人口移動(大学生の茨木市での定住可能性)

・大学生へのアンケートでは、茨木市への愛着が高いほど、将来茨木市に住みたいと考えます。

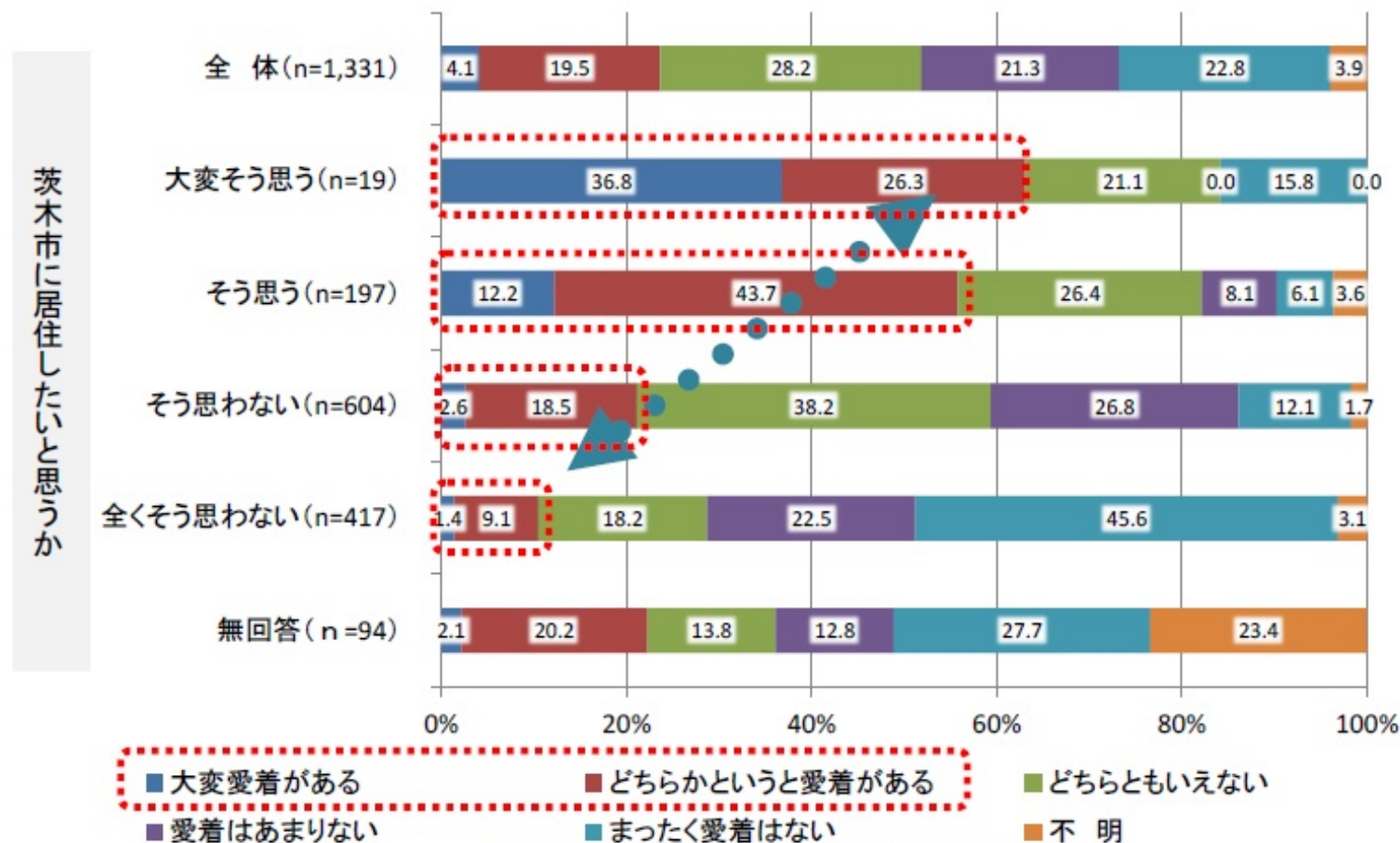


図 茨木市への愛着と居住意向の関係

(資料: 茨木市大学生の居住実態・就職意識等に関するアンケート調査)

なぜ大学・学生に地域と連携してもらいたいのか？



②若年層の人口移動(大学生の茨木市での定住可能性)

- ・ **社会活動・地域活動に参加**したことがある学生は、愛着が高くなる傾向にあり、将来、茨木市に住みたいと考える率が高くなります。
- ・ 多くの学生が「多忙」や「きっかけがない」という理由で、参加していません。

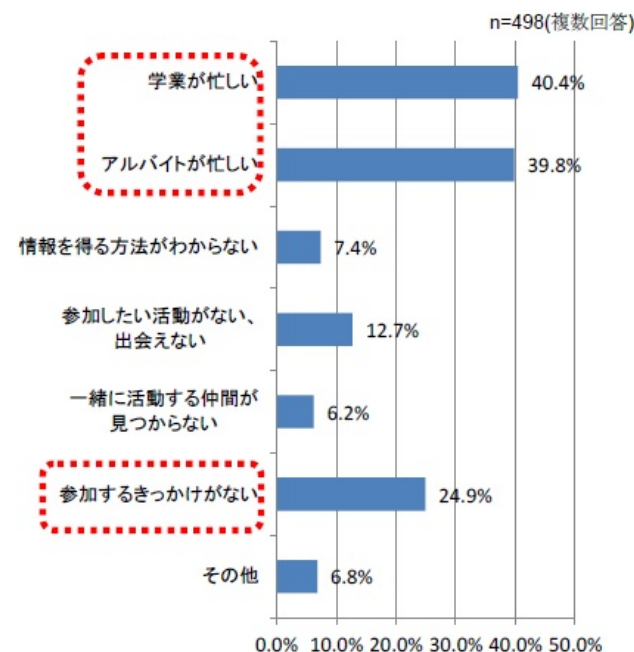
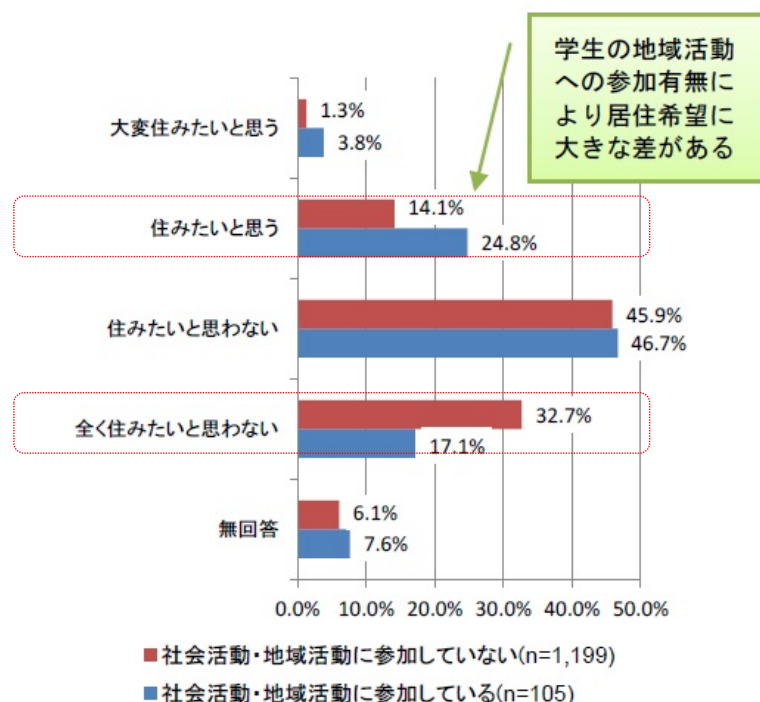


図 社会活動・地域活動への参加状況と茨木市での居留意向の関係

図 社会活動・地域活動に参加できない理由

(資料: 茨木市大学生の居住実態・就職意識等に関するアンケート調査)

なぜ大学・学生に地域と連携してもらいたいのか？



②若年層の人口移動(大学生の定住促進)

- ・茨木市では、大学立地の多さから、大学入学のタイミングで転入超過でありながら、卒業(就職)時期において、大きく転出超過の傾向にあります。



茨木市での定住意向を高めるには・・・

大学生の「地域活動・社会活動」への参加を増やし、茨木市への愛着、定住意向を高めてもらう！

そのために、地域活動へ参加しやすくする「きっかけづくり」や「マッチングの仕組み」を構築します。

なぜ大学・学生に地域と連携してもらいたいのか？



①地域の活力向上

まちづくり、地域活性化には、

「ヨソモノ、ワカモノ、バカモノ」の力と
大学の持つ「知」の力

が必要

②大学生の定住促進

大学生の「地域活動・社会活動」への参加を増やし
茨木市への愛着、定住意向を高めてもらう！

茨木市の取り組み(大学連携関係)



茨木市の取り組み(第5次茨木市総合計画より抜粋)



【施策7-7】 多様な主体による協働のまちづくりを推進する

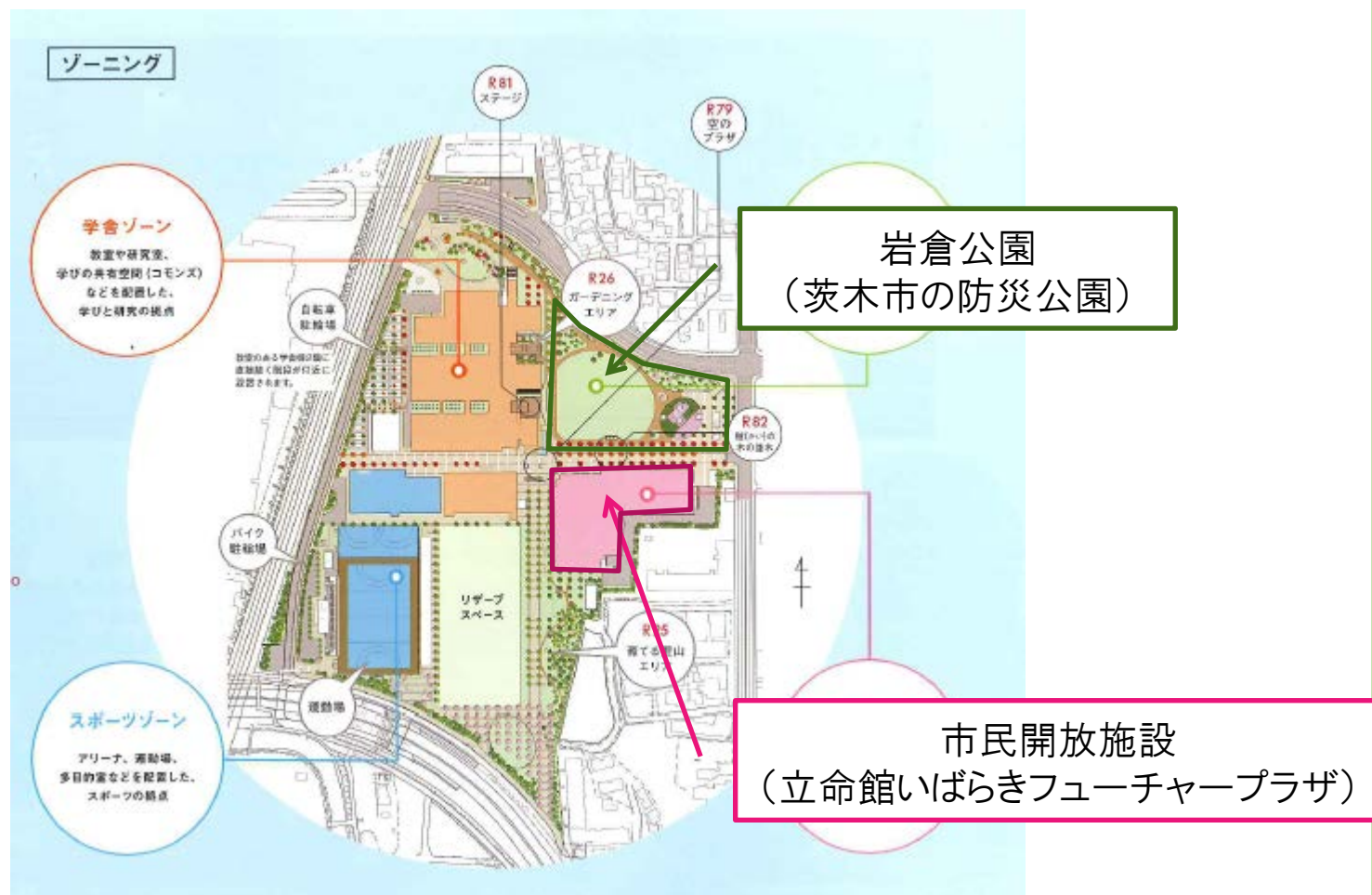
【取組⑤】 **大学との連携**によるまちづくりの推進

現状と課題		目標	
市内大学、連携協定を結んだ大学とさまざまな取組を実施しています。行政課題とも関連するフォーラムやイベントが中心となっていますが、 <u>地域との連携を強化する必要があります</u> 。		地域と大学の連携が進んでいます。 市と大学の連携による取組が進んでいます。	
市が行うこと	市民が行う (期待する)こと	事業者・団体が行う (期待する)こと	
<u>大学と地域を結びつける仕組みづくり</u> を行います。 長期的な行政課題について、大学と連携して研究・検討を進めます。	住む、働く <u>わがまちに興味や愛着を持ち、地域でのまちづくりに参加</u> します。	<u>大学が地域連携機能を強化</u> して、まちづくりの推進に寄与します。	
「行政がすること」	「学生に期待すること」	「大学に期待すること」 実際、最近の大学では「地域連携課」や「社会連携課」といった部署を設けることも多いです	

取り組み・連携事例

■立命館大学 大阪いばらきキャンパス

- ・地域・社会連携をコンセプトの一つとして、平成27年4月に開設されました。
- ・キャンパスには塀を設けず、**地域・社会に開かれた場**としています。



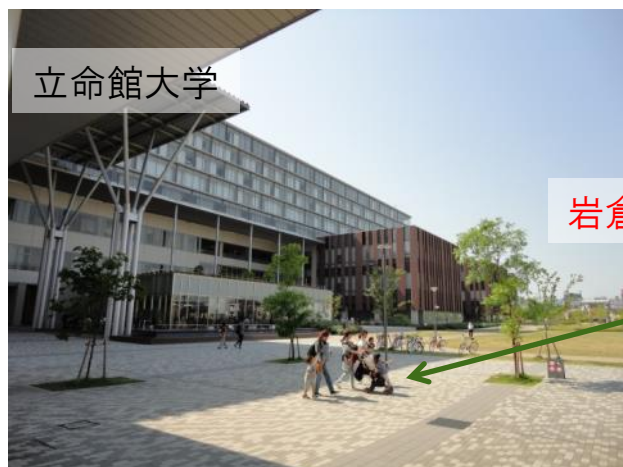
取り組み・連携事例

■立命館大学 大阪いばらきキャンパス

・大学敷地と公園、公園と道路の間にフェンスや塀が無いため、市民が気軽に訪れることができる空間となっています。



境界を意識しない作りになっています



大学の中を通りぬけたり、散歩したり、公園に遊びにきたりと、市民が日常的に利用しています

取り組み・連携事例

■立命館大学 大阪いばらきキャンパス

・キャンパスに隣接して公園を設置。**一体的に整備**することで、出会い、交流
できるような仕掛けとしています。



遊具広場と芝生広場で構成されています。特に遊具には普段から
たくさんの子供が集まって遊んでいます

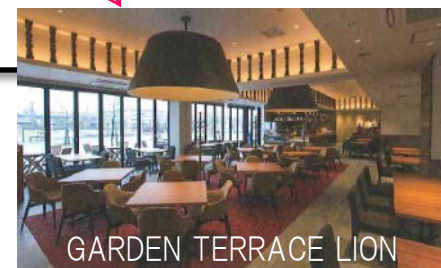
取り組み・連携事例

■立命館いばらき フューチャープラザ

- ・市民が利用できるように、市が支援し大学が整備した施設。
- ・ホールや図書館、スターバックス、レストラン、茨木商工会議所などがあり、市民も使えます。

フューチャープラザ フロアガイド

5F	ガーデンライブラリー(屋上)	研究施設、産学交流ラウンジ、リサーチオフィス
4F	OICライブラリー	研究施設
3F	OICライブラリー	コロキウム
2F	OICライブラリー	グラントホール、ラーニングスタジオ、ギャラリー、地域連携室
1F	茨木商工会議所	カンファレンスホール、イベントホール、音楽練習室、レストラン、カフェ、まちライブラリー@OIC、インフォメーション



取り組み・連携事例

■ 立命館いばらき フューチャープラザ

フューチャープラザ グランドホール

OICライブラリー



最大1,000人収容の大ホール。市民は半額の利用料金で借りることができます



22万冊を揃える大学図書館。
夏休み、春休みには、高校生を対象に自習スペースとして開放しています



茨木市の取り組み(茨木市総合戦略より抜粋)

基本目標① 「若い世代に選ばれるまち」

【施策の方向性】

■就職を機に転出する世代を引き留める

- 大学生奨学金利子補給事業
- 新規開業者の創業促進と成長支援
- 就労支援フェア等の開催

H27制度創設

H28対象者を
大学生まで拡充

H26制度創設
H27拡充

H28制度創設

■大学生が将来、茨木市に帰ってくるような種まきとしての取組

- 地域・大学の連携支援(大学連携版提案公募型補助金の創設)
- 産学連携スタートアップ事業の促進
- 大学の人材と地域課題をマッチングさせる仕組み・場の創出(マッチングボードの作成)

H28作成完了

茨木市では、この2、3年で大学連携において、多くの新規・拡充事業が立案、推進されています



取り組み・連携事例

■産学連携スタートアップ事業

- ・市内の中小企業が、大学と連携して行う新技術、新製品、新サービスの研究開発等に対し、補助金を交付。
- ・連携協定締結大学との連携は、最大500万円(1/2補助)、それ以外の大学との連携は、最大300万円(1/2補助)

最近は理系の連携が多い傾向にあります

平成28年度実績

事業内容	連携大学	補助額(円)
ゴムと金属の接着の研究	大阪大学	548,000
バクテリオファージ製剤による家畜の微生物制御と耐熱性プロテアーゼによる安全性の高い堆肥の生産方法の検討	大阪大学	467,000
豆腐作りを通した職員及び食品製造過程の体験事業	追手門学院大学	159,000
脾臓癌癌幹細胞モデル標的核酸医療の開発	大阪大学	5,000,000

取り組み・連携事例



■ 産学連携スタートアップ事業

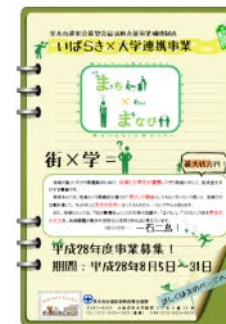
【若者向け地元産野菜を使った「やさいジュレ」の開発】
 (追手門学院大学 平成27年度 補助額193,000円)

・見山特産の豆乳をベースに見山の野菜の自然な味をいかした手軽に野菜が取れる飲むジュレの開発と新商品を活用した見山地区のPRをめざす。



取り組み・連携事例

■ いばらき・大学連携事業補助



- ・ 大学及びその学生が地域の課題解決及び活性化に取り組む事業に対し、市が補助金を交付することにより活躍を促進し、連携によるまちづくりの推進を図ります。
- ・ 大学が申請する「**大学版**」と、学生もしくは地域団体等が申請する「**学生版**」の2種類。(大学版は平成29年度～)

・ **学生版: 最大45万円/1事業、100%補助**

(地域団体が申請する場合は経費の4/5補助)

・ **大学版: 最大200万円/1事業(市民等の参加者数に応じて上限が減少)、1/5補助**

H28は4/5補助、
H29から5/5補助に拡充

大学版上限一覧

市民等の参加者数	上限額
5,000人以上	200万円
1,000～4,999人	50万円
500～999人	20万円

取り組み・連携事例

■いばらき・大学連携事業補助

平成28年度チラシ(学生対象)より抜粋

- 学生さんには、地域という実践的な場での「学び」の機会としてもらいたいという思いと、地域での活動を通じて、**今よりもっと茨木を好きになってもらえたら**・・・という下心があります。
- また、地域にとっては、「**知の集積地**」としての大学の知識や、「**ヨソモノ**」、「**ワカモノ**」である**学生さんの力**を、地域課題の解決や活性化に活用できればと考えています。
- うまいけば・・・一石二鳥！

茨木市提案公募型公益活動支援事業補助制度

いばらき×大学連携事業

Machi × Manabi

まち × まなび

街×学 = ?

最大45万円！

地域の魅力づくりや課題解決に向け、**地域と大学生が連携**して行う取組に対して、助成金を交付する事業です。

学生さんには、地域という実践的な場での「**学び**」の機会としてもらいたいという思いと、地域での活動を通じて、**今よりもっと茨木を好きになってもらえたら**・・・という下心があります。

また、地域にとっては、「**知の集積地**」としての大学の知識や、「**ヨソモノ**」、「**ワカモノ**」である**学生さんの力**を、地域課題の解決や活性化に活用できればと考えています。

うまいけば・・・一石二鳥！

平成28年度事業募集！

期間：平成28年8月5日～31日

詳しくは次のページへ！

茨木市企画財政局政策企画課

〒587-8505 大阪府茨木市駅前3丁目8番13号
TEL (072) 820-1805 (直通) FAX (072) 820-3025

対象団体

ゼミやサークルでもOK！

- 大学（短期大学及び大学等を含みます。以下同じ。）の学生で構成される団体・グループ（ゼミ、クラブ、学生サークル（該校の大学の学生により構成されるサークルも含む）または、主たる活動拠点を市内に有する団体（学生団体等除きます。）であること。ただし、学生以外の団体が申請する場合は、事業における学生の役割を明確化し、学生が主体となって取り組むことができること
- 構成員の数が5人以上の団体
- 政治又は宗教的活動を目的としない団体
- 暴力団でないこと、暴力団及び暴力団員の統制下にないこと
- 当該事業の実施について主たる構成員が在学する大学の学修を得た大学の団体・グループ（ゼミ、クラブ、学生サークル（該校の大学の学生により構成されるサークルも含む）または、定款、規約、会則等による運営がなされている主たる活動拠点を市内に有する団体（学生団体等除きます。）

対象事業

大学生の皆さんの「茨木で何かしたい！」を応援します！！

- ① 主に茨木市に在住・在勤・在学の者を対象とし、市内で実施する事業
- ② 地域の活性化又は社会及び地域の課題解決が図られる事業
- ③ 国、地方公共団体から補助金等の交付を受けていない事業
- ④ 平成28年10月1日から平成29年3月31日までに実施・完了する事業
- ⑤ 当該団体の会員等のみを対象とした事業でないこと

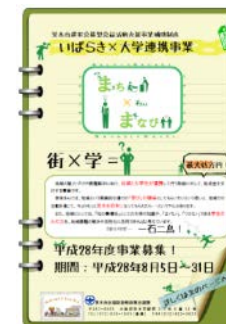
補助金額

45万円（上限額）
補助率：4/5

※申請費、補助金受取書の交付費等、事業の実施に必要となる経費は、補助金受取書で補助金受取書に添付される領収書等の提出により領収書として提出すること（平成28年度以降）
※同一事業について複数回、申請を受理しません。

取り組み・連携事例

■ いばらき・大学連携事業補助



○ 平成28年度(学生版のみ)

事業名	団体名	申請金額(円)
バリアフリー映画上映会	MBF.com	99,000
立命の家inいばらき	立命の家実行委員会	112,000
大学生と連携した茨木の魅力を発信するマップ作り	茨産研究会	280,000
RIL(図書館アプリ)	watnow	72,000
防災減災ワークショップ	立命館大学Attelle＋GENSAIプロジェクト	182,000

○ 平成29年度(大学版のみ、学生版はH29.6募集開始のため計上せず)

事業名	団体名	申請金額(円)
いばらき×立命館DAY 2017	立命館大学	2,000,000
おうてもんジュニアキャンパス	追手門学院大学	267,000

取り組み・連携事例

■ いばらき・大学連携事業補助

【立命の家 in いばらき】

- 小学生をキャンパスに招待し、「一日立命館大学生」として大学生と一緒に各クラブで体験参加型の学習活動を開催。

立命の家 in R 立命館大学
いばらき

さんかむむじょう
参加費無料!
※観覧は自由と用意ください

立命館大学大阪いばらきキャンパス(OIC)で大学生が行っている活動と一緒に体験してみませんか?

日時: 3/11(土)9:30~16:00
場所: 立命館大学大阪いばらきキャンパス
対象: 小学生(茨木市在住) 定員: 60名(申込多数の場合は抽選)

① そろばん体験
～みんなであそびそろばん～
魔法の計算機「そろばん」を使いこなそう!テレビで話題のフラッシュ計算ができるようになるかも! By 珠算部

② 将棋教室
将棋であそんでみよう!
ルールから駒の動き方、実戦などたのしく教えます! By 将棋研究会

③ 英語教室
たのしく英語とふれあおう!
by ESS

④ トランプを使ったマジック講座
マジシャンになつてみよう!テレビのようなマジックがキミの手で!!
by 宇都宮家康あるかん

⑤ がうアップカード&マンガづくり体験
ひらくととびだすしずなカード、ポップアップカードとマンガを作ります。
by Painting & Comics

⑥ スピーカーづくり教室
かみコップなど身近にあるものを使ってスピーカーをつくります。
by 音楽工学研究会

⑦ チア演技体験
あなたもチアリーダーに!
たのしく体を動かしてチアリーダーの演技を体験しよう! 男の子も大歓迎!
by チアリーダー部

⑧ ホッケー教室
注目度第1位のホッケーを体験してみませんか?今回はフロアホッケー教室を開催します。
by ホッケー部

⑨ バドミントン教室
キミも未来の金メダリストをめざそう!!
by バドミントン部

【防災減災ワークショップ】

- 普段、防災や減災に触れる機会のない人々に、「食」という身近なテーマを通じて防災減災に関心を持ってもらうイベントを行う。



GENSAプロジェクト (立命館大学学びのコミュニティ集団形成助成金採用団体) & 立命館防災共育サークルAtelle (立命館大学政策科学部自主ゼミ団体) 主催

ぼうさい食まつり

東北と熊本の美味しいごはん
／非常食をつかったカンタン料理を食べながら、現地の話を聞いてみませんか?

2016年12月4日(日) 13:00~16:00
場所: 立命館大学大阪いばらきキャンパス C棟1階 OICカフェテリア内
参加費無料
被災地への寄付金のご協力をお願いします。(300円程度)

NPO底上げ代表理事 矢部 寛明氏が語ります!
(NPO法人底上げ代表理事/一般社団法人アショカジャパンスタッフ)
東北の震災を経験した女子学生語り部田畑さんもテレビ電話で出演します。
おいしい現地のごはんを食べながら、東日本や熊本について聞いてみませんか?教科書にも載るような未曾有の大災害当時中学生だった田畑さんの伝える防災の大切さ。直後に現地入りしNPOを立ち上げた矢部さんの話す宮城県気仙沼の現状、在日料理、意外と美味しい!!非常食もご用意しております。お気軽に遊びに来てください!!

この事業は、茨木市提案公募型公益活動支援補助制度による補助を受けて実施しています。

取り組み・連携事例

■いばらき×立命館DAY 2017

立命館大学と茨木市のつながりを楽しく知り、体験する
「いばらき×立命館DAY 2017—出会う、つながる、
つくりだす—」



- ・平成29年5月21日 10時～16時開催
- ・立命館大学と茨木市から約80のブースを出展、参加者数は約1万人

企画名	内容
「知る・体験する」	・茨木市との連携講座「半日で学べるシステム・シンキング入門」 ・ホッケー部やチアリーダー部による子ども向け体験教室 ・キャンパスガーデンツアーや親子で参加できる里山・木工体験など
「食べる・買う」	・茨木ご当地ソフトクリーム ・立命館ビール「iBR」 ・JA茨木市による地場産野菜 ・学生団体「くまだす＋R」による熊本県益城町の郷土料理「姫だご汁」の販売など
「観る」	・大学吹奏楽部やチアリーダー部、バトントワリング部によるパフォーマンス ・中学校吹奏楽部による演奏など

取り組み・連携事例

■ いばらき × 立命館DAY 2017の様子



チアリーディング教室



学生団体によるステージパフォーマンス

初年度は「大学」と「地域」の交流という印象でしたが、3年目を迎えた今年は、学生の参加が増え、「学生」と「市民」の交流へと発展しつつあります。

次なる
茨木へ。
平成30年4月茨木市立命館大学開校17周年

R RITSUMEIKAN
OSAKA
IBARAKI
CAMPUS
est.2018

出会う、つながる、つくりだす
いばらき×立命館DAY 2017

場所 立命館大学
大阪いばらきキャンパス

日時 2017年5月21日(日)
10:00~16:30

観る 茨木市で活躍する団体や、
学生によるステージパフォーマンス!!

空のプラザ
10:00~16:30

13
ステージ

ふさこい 茨木市で活躍する団体や、 学生によるステージパフォーマンス!!	応援パフォーマンス 応援団・チアリーディング部 パンクダンス(立命館大学)	ちんどん屋 出町ちんどん(立命館大学)	沖縄音楽 沖縄音楽研究会(立命館大学)
社交ダンス 社交ダンス(立命館大学)	マジック 手塚俊明(立命館大学)	ストリートダンス 魔術Wall Street(立命館大学)	司会進行 立命館大学放送局(RBC)
フラッシュモブ StreetDance(立命館大学)	アカペラ Empire Cant(立命館大学)		

主催/立命館大学 共催/茨木市 後援/茨木市教育委員会・茨木商工会議所・茨木市観光協会



地元カフェの出店

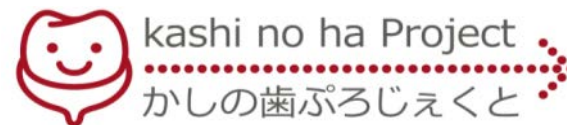


総合心理学部縁日横丁



総合心理学アカデミック講座

取り組み・連携事例



■ かしの歯ぷろじえくと(H27-28)

“茨木市の子供の虫歯罹患率を下げる“ための
産学官連携の活動「かしの歯ぷろじえくと」

産

丹平製薬



学

立命館大学



官

茨木市



事前学習でのママへのインタビュー調査

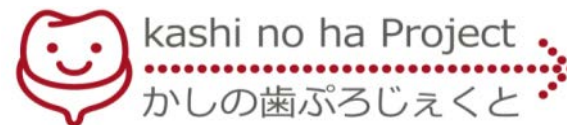


「いい歯の日」にママを集めワークショップ



茨木市役所へ成果の報告会

取り組み・連携事例



■ かしの歯ぷろじえくと(H27-28)

“茨木市の子供の虫歯罹患率を下げる“ための 産学官連携の活動「かしの歯ぷろじえくと」

子どもの歯磨き・仕上げ磨きに関する考え方や、家庭での成功体験を共有しあうことで、
子どもの虫歯の予防へのモチベーションを高め合ってもらうことを目的に、
平成28年度は幼稚園・保育園にて、
かしの歯ぷろじえくとオリジナルワークショッププログラムを実施。



15/04/11放送
NHK関西「あほやねん！すきやねん！」



15/05/21放送
JCOM関西「関西TODAY ～ジモトwatch～」

取り組み・連携事例

■いばらき×大学 連携マッチングボード「いばまちボード」



連携活動が活発になるにつれ、どこで誰と誰が連携し、何をしているのかわからない…連携したくても、どこに聞いたらいいのかわからない…



そこで…

地域、大学、行政の出会い、交流の促進を図るべく、連携の呼びかけ、参加者募集、結果報告などを、それぞれの主体から行うことができる「連携マッチングボード」をホームページ上に構築し、情報の一元化、見える化を図ります

大学連携担当をしていて感じたこと



■これからの課題

※個人の感想であり、効果効能には個人差があります。

・学部や教員の温度差

積極的に地域に出てくる教員とそうでない教員がいらっしやいます。気がつけば連携先が、積極的な特定の先生に集中してしまうということになったりします。

・大学間の連携

学生同士でも難しいのに、大学間となると正直言って厳しい・・・

・継続性の確保

当たり前ですが、大学生は4年で卒業してしまいます。キーとなる学生が卒業していなくなると、活動自体がなくなってしまうことも・・・

・便利使いをしない

学生は基本ボランティアで参加してくれますが、これは安く使える労働力ではありません。お互いにWinWinの状況になるように、行政もしっかり汗をかく(金も出す)必要があります。



大学連携担当をしていて感じたこと

■うまく連携を進めるには

※個人の感想であり、効果効能には個人差があります。

・大学職員とは定期的に会う

茨木市では、およそ1～2ヶ月に一度は、市内大学の担当者が集まる会議を設け、情報交換・共有をしています。ざくばらんな話のできる顔の見える関係を築いておくことが重要です。

・学生とSNSなんかでもつながっておく

学生個人、特にキーマンとなる学生とは、フェイスブック等で「友達」になっておくと、彼らの活動をリアルタイムで知ることができますし、直接連絡を取ることもできます。(賛否あるかもしれませんが…)例えば新しい事業を作ったので、大学を通じて呼びかけたとしても、せいぜい掲示板にチラシが貼られる程度。それより学生に連絡を取って直接説明したほうが、ずっと効果的です。また、何かと学生が頼ってくれるようになってきます。

・教員を巻き込む

継続性という観点では、ゼミ単位など教員や大学と一緒に取り組むことが重要です。ただし、教員に参加してもらうためには、大学や学部の理解や許可が必要となるなど難しい点も多いです…その代わり、巻き込めたら力強いです。



茨木市



次なる
茨木へ。

茨木には、次がある。